

令和5年度第1回岩手県死因究明等推進協議会での主な発言等

参考資料1

項目	主な発言・提案の内容	対応状況等
1 死因究明等に係る人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・他県と比べてもセミナー、研修会は充実していると思うので、今後も継続しつつ、若手の医師、歯科医師の参加を促していきたい。 ・警察歯科委員は盛岡に集中しているが、岩泉の先生もいるので、日本海溝・千島海溝沿いの地震に備え、積極的に参加してもらえるように周知したい。 	—
1 死因究明等に係る人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・花巻、宮古では地域の医師が輪番制で検案を行っており、ベテラン医師から若手医師に声をかけて参加してもらっている。 ・可能であれば花巻、宮古の先生にどのように体制を整備したのかなどを聞いてみて、次回の協議会で報告したい。 	令和6年度第1回協議会で報告
2 警察等における死因究明等の実施体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関からの情報提供体制については、都道府県単位で整備ができるものではなく、全国的な体制整備が必要である。 ・現段階でできるのは、法的根拠や医療情報提供に係る具体の事例の整理ではないか。 	第2次死因究明等推進計画の公表待ち（R7.6月閣議決定の予定であったが、現時点で未公表）
3 死体の検案及び解剖等の実施体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・県の総合防災訓練の前に死因究明、身元確認に係る備品の在庫確認を行ったが、備品が不足していた。 ・災害発生時の死因究明等の体制については、市町村の地域防災計画の中で定められているが、実際、どれほどの備えがあるかは懸念があるところだと思うので、県の復興防災部とも連携しながら、全部の市町村と言わずともいくつかの市町村をピックアップして確認していければよいのではないか。 	令和5年度に県警、法医学で在庫確認を実施